

伊達な
国際交流員の
つれづれコラム
vol.92



「アメリカで家族と一緒に楽しい感謝祭」

A Fun Thanksgiving Stateside with Family

英訳版を
見る▶



アメリカで毎年11月の第4木曜日は、「サンクスギビング・デー」こと感謝祭という祝日になっています。家族や普段一緒に過ごしている友達との支え合いに感謝し、おいしい食事を楽しむ日です。私は、感謝祭の日に食べる伝統的な料理があまり好みではありませんでしたが、翌日に残り物の七面鳥と克蘭ベリーソースで作るサンドイッチを楽しみにしていました。例年は、家族や友達と過ごすことが多いのですが、昨年は、ペンシル

ベニア州にある叔母の家に家族全員で行きました。そこには、父や姪、子どもの頃以来会っていなかったいとこたちも来ていました。そこでは、皆がいくつかの料理を持ち寄り、仕出し料理を頼んで楽しみました。みんなでご飯を食べた後、子どもたちと私はテレビの前に集まってウィル・フェレルさんが主演する『エルフ』を観ました。コメディが好きな人にぜひお勧めします。今回、感謝祭に合わせてクリスマスについても両方を祝う良い機会でした。子どもたちが外で走り回っている間、父が大きな居心地の良い椅子で居眠りをしているのを見つけた和やかな気持ちになりました。皆さんも家族を大切に。(イボンヌ)

地域の魅力
ふる里再発見

えぞにしき
伝えられた蝦夷錦

令和6年度第2回企画展

～姉妹都市協定締結40周年記念～

令和7年1月27日(月)まで
伊達市保原歴史文化資料館

松前藩とアイヌの人びとの交易品に、蝦夷錦があります。紺色・赤色・緑色の緞子仕立ての上質な絹織物に、金糸・銀糸などで、雲龍（雲に乗って昇天する龍）や牡丹の文様を織り出したものです。本来は、中国清朝高官が着用した官服です。満州・間宮海峡・樺太を経て、蝦夷地に渡り、日本にもたらされ、遠方から渡来した官服は蝦夷錦と呼ばれるようになりました。高級品の蝦夷錦は、陣羽織・袷袢・座布団などに、転用されました。松前藩は江戸幕府にも献上したとも伝えられています。アイヌとの交易品には、鮭・昆布・毛皮・鷲の羽などがあります。最も珍重されたのは、蝦夷錦でした。

梁川の興国寺は曹洞宗の古刹です。同寺は寺宝として、「松前家寄進蝦夷錦打敷」一枚を保管しています。打敷（装飾用に敷く布地）に転用されているため、官服の面影はありませんが、赤色の絹織物に、雲龍文様が織り込まれています。この文様から、蝦夷錦の背面であることが解ります。頭部の角二本、鱗で覆われた背中、くねらせた胴体など、卓越した技巧の、絢爛豪華な蝦夷錦です。文化4年（1807）、松前藩は梁川に国替えになります。同9年（1812）藩主章広の息女、露姫が死去し、同寺境内に埋葬されました。寺宝の蝦夷錦は、仏前供養として奉納された露姫の遺品と伝えられています（『梁川町史』10）。昭和60年（1985）に梁川町指定文化財となり、現在は伊達市指定文化財になっています。「松前家寄進蝦夷錦打敷」は、伊達市と松前町をつなぐ重要な文化財です。



「松前家寄進
蝦夷錦打敷」

にじいろのだて (男女共同参画に関するさまざまな用語を紹介)

『デートDV』… カップル間で起こる暴力のこと。身体的な暴力のほか、大声で怒鳴ることや、ほかの人とのメールをチェックするなどの精神的な暴力も含まれます。

